広報 中部の森林（もり）

写真：「朝焼けの白馬三山」（中信署管内）

私の森語り「豊かな暮らし方提案を通して、豊かな森づくりを目指す」
株式会社やまとわ 榎本浩実

令和５年　年頭ご挨拶
・中部森林管理局長　関口 高士

各地からの便り
・国有林の森林計画策定に向けた現地視察　ほか

シリーズ
・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
　秘蔵写真・今は昔の林業

国民の森林・国有林
林野庁中部森林管理局

2023/No.226

初心忘るべからず

中部森林管理局長　関口（せきぐち）　高士（たかし）

令和五年　年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、私事になってしまいますが、昨年末、四国森林管理局四万十森林管理署から一通の文書が届きました。中身を見ると、署内の国有林に「郷土の森」を設定した際、地元の村が設置したタイムカプセルを約三十年を経て開けたところ、私の文書が入っていたので届ける、というものでした。

今から約三十年前、私は担当区主任（翌年から「森林官」という呼称になりました）でしたが、その郷土の森は、同一署内であったものの私の管轄する担当区とは別の村の別の担当区に設定されたものであり、なぜその記念のタイムカプセルに私の文書を入れることになったのかは、全く覚えていないのですが、本庁から来たばかり（着任二週間後くらい）のお兄ちゃんの思い出づくりにはよかろう、と誰かが考えてくれたのだと思います。

一方、文書の内容ですが、そんな状況でよほど書くことがなかったのか、「国有林は将来どうなっているのかなあ」という、今でも三分くらいで書けそうな面白くもなんともないものでした。

ただ、誰かの気遣いのおかげで、当時を振り返る機会を得ることができました。正直に言えば、振り返るとダメダメな自分がいて、あまり振り返りたくはないのですが、若干過去を美化してオブラートに包めば、初めて暮らす土地、初めての現場で、地域に溶け込んで頑張ろうと思っていたこと、一年間本庁で行っていたことと現場の感覚のギャップに呆然としたこと、などが思い出されます。三十年の時を経て、私もだいぶ煤けてしまいましたが、当時の思いは忘れないようにしたい、と思っています。

森林管理局・森林管理署は、まさに世の中の動きと現場（国有林ばかりでなく、民有林や地域の方々の様々な考え）のギャップを埋めていくことが大きな役割だと思います。それぞれの声を聞き、伝えるとともに、地域の特性・特色の中で判断をし、ものごとを進めていく。こういったことが期待されているはずです。

特に現在、いわゆるウッドショックやロシアによるウクライナ侵攻が起こったことで、国産材への期待がかつてないほど高まっていますが、需要と供給の関係は必ずしもスムーズなものとはなっていません。また、人工林資源が伐期を迎える中で、再造林率の向上は待ったなしの課題です。局署が管轄する地域においてできることは何か。分からないことがあれば、地域の皆様の意見を聞き、国有林というフィールドで様々な取組にチャレンジする。こういったことで局署と地域の皆様との間で情報・知識を共有し、様々なギャップを埋めていくことができれば、と考えておりますし、地域に国有林があって良かったと思っていただけるよう努力していきたいと考えております。引き続き、ご支援・ご協力をいただければ幸いです。

結びに、皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

育成複層林施業予定地での説明

林地保全に配慮した施業の説明

裏木曽御用材の伐採跡地を視察

昼食後に木曽ヒノキの歴史等について説明

国有林の森林計画策定に向けた現地視察

【企画調整課、計画課、東濃森林管理署】

十一月二日、中津川市付知町の加子母裏木曽国有林において、「国有林の地域別の森林計画等検討会」委員による現地視察を行いました。

中部森林管理局では、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林づくりを推進するため、管内十四の森林計画区の森林計画を五年ごとに順次策定しています。

今回の現地視察では、本年度の策定対象である「木曽川森林計画区」において、計画の策定に先立ち、委員の皆様からのご意見をいただくために実施したものであり、委員である大学教員、森林・林業関係団体やＮＰＯの代表など、八名の有識者の方々にご参加いただき、近年の気候変動による豪雨の増加に伴う山地災害のリスクを軽減するための伐採・搬出方法や、様々な生育段階から構成され、多様で健全な森林に誘導するための育成複層林施業について、今後伐採を予定している森林を見ながら、意見交換等を行いました。

その後、伊勢神宮の式年遷宮の行事である裏木曽御用材伐採式（平成十七年開催）の木曽ヒノキ伐採跡地の森林の状況もご覧いただきました。

委員の方々からは、架線を用いた集材により、土砂流出・崩壊リスクを軽減することの重要性や、架線を扱うことのできる林業技術者の育成の必要性、地域の伝統産業・文化に国有林が果たすべき役割など、様々な観点からご意見をいただきました。

数々の貴重なご意見につきましては、市町村等の関係行政機関や一般の方々からいただくご意見と併せて、今後策定する森林計画への反映や、当局の各種取組に活かしてまいります。

坂城（さかき）小学校五年生を対象に 森林教室を実施

【技術普及課】

十一月四日、長野県埴科郡（はにしなぐん）坂城町の坂城小学校五年生の児童三十九名を対象に、中部森林管理局庁舎にて森林教室を実施しました。

これは、同校が長野市内三箇所の企業等を訪問する「社会見学」授業の一箇所目として当局を訪問し、森林や木材などについて学びたいとの依頼があったものです。

森林鉄道の車両の前で

バスを降りた児童の皆さんに、まずは庁舎玄関前に設置された森林鉄道の車両を見てもらい、昭和五十年三月まで長野県内の林業の現場で丸太を運搬するなど、活躍していたことを説明しました。

その後、大会議室へ移動し、日本国内の多様な森林のすがた、世界の森林分布などの写真やイラストを説明とともにテンポ良く画面に流すと、時には声をあげて驚き、熱心にノートをとっていました。

興味津々で画面を見つめる児童たち

途中の「実験タイム」では、「森林がある土壌」と「何もない校庭の土壌」の模型を使い、雨が降った場合に水質や水量がどうなるのかを観察してもらいました。

二つの違いについて、「森林がない方は水がしみこまないし、出てくる水の色が汚い」「森林がある方は、きれいな水が長時間出ている」と、次々に発見したことを発言してくれ、土壌の模型を実際に触って「森林の方は本当にフカフカしてる！」と感触を楽しむ児童の皆さんに森林土壌の必要性などを伝えて実験を終えました。

最後は、再び写真などを見てもらいながら、森林の役割や昔と今の木材利用の違い、現代の私たちが森林の木を伐って使うことの意味について、職員の思いを込めて説明しました。まとめの時間には、「山火事が起きたときどうするのか」「どうやって森を育てるのか」などの質問があり、国有林の仕事にも関心を持っていただいたように思いました。

後日、「実験が面白かった」「森林は私たちの生活に必要だと分かった」「森林のことを考えて守っていきたい」など、とても嬉しい児童全員からの手書きの感想が小学校から届きました。未来の森林を考えるきっかけになる森林教室を行うことができ、喜ばしい限りです。

雨水の行方の違いをじっくり観察

木曽川と堀川・上下流を繋ぐ交流会への協力

【名古屋事務所】

十一月二十六日、木曽三川がつなぐ山とまちインターネットフォーラム実行委員会・堀川一〇〇〇人調査隊二〇一〇実行委員会主催の「第十七回木曽川と堀川・上下流を繋ぐ交流会」が名古屋市内で開催され、上流域である長野県木曽郡在住の二十六名と下流域の名古屋市在住の十九名の参加者が当所の「熱田白鳥の歴史館」に来館されました。

この交流会は、平成十九年から三年間実施された堀川への木曽川導水社会実験を機に、上流域と下流域がそれぞれの魅力や地域の悩みなどを理解し、応援し合う関係にしていくことを目的に開催されており、昨年六月には木曽郡南木曽町にて行われています。

今回の交流会では、堀川と木曽との歴史的なつながりや、名古屋や堀川の抱える課題などを上流域の方々に感じてもらうため、主催者からの依頼を受け、名古屋城の築城がはじまった一六一〇年より豊富な資源を有している木曽山などから二十万石（五五、六六〇立方メートル）もの木材が供給されたこと、その木材などの資材を運搬するために堀川運河が開設されたこと、昔から現代までの木材の伐採や搬出の変革、堀川の木材置場として活躍した白鳥貯木場の歴史、木曽川上流の人たちと堀川周辺の人たちのつながりが四百年以上もあることなどについて、約一時間の説明を行い、展示物の見学もしていただきました。これからも多くの方に「熱田白鳥の歴史館」をご利用いただきたいと思います。

モニターで昔の伐採や搬出の様子を紹介

森林からのプレゼント　クリスマス出前森林教室

【中信森林管理署】

十二月九日、松本市堀米（ほりごめ）保育園の年長園児二十名を対象に森林教室を行いました。同保育園での森林教室は、平成二十六年から定期的に実施しています。

教材などを持って保育園に行き、まずは、手作りの紙芝居「どんぐりクイズ」で、どんぐりを取り巻く生態系の仕組みを学び、様々な木の実を入れた「木の実の宝箱」で、どんぐり以外の種子も観察しました。

また、冬の森林教室の定番である絵本「ふゆめがっしょうだん」の読み聞かせを行いました。

「冬芽」は、樹種により色々な形があり、動物の顔に似た冬芽のページになると、園児たちが楽しそうに笑う姿が見られ、冬眠をする動物のように、樹木は冬芽で寒い冬を過ごし、春を待つことを学びました。

サプライズ企画として、箱の中身を当てる「?ボックス」を行い、企画にチャレンジした園児たちは、何が入っているのか恐る恐る箱の中に手を入れて、感触を確かめていました。中身は、クリスマスの定番のトナカイではなく、ニホンジカの角でしたが、普段、あまり触れる機会がないため、本物を見て驚いた様子でした。

最後に、当署の職員が作製した「松ぼっくりのクリスマスツリー」を一人一人にプレゼントし、限られた時間でしたが、大変喜んでいただくとともに森林に興味を持っていただくことができました。

どんぐりや冬芽から学ぶ森林の世界

ニホンジカ食害防除対策の現地検討会を開催

【森林技術・支援センター／岐阜森林管理署】

十二月八日、岐阜県加茂郡七宗町において、ニホンジカ食害防除対策の現地検討会を開催しました。

現在、各地でニホンジカの食害が深刻化し、適正な頭数に管理する個体数調整や、植付した造林地などにニホンジカを侵入させない、あるいは造林木の食害を防止するための低コストで効果が期待できる対策の技術開発などが求められています。

こうした状況の中、本検討会は、国、県、市町村、事業体等が情報共有を図り、意見交換会を行うことにより、岐阜県内での、より効果的なニホンジカの食害防除対策を行うことを目的とし、平成二十八年度から毎年開催しているもので、本年度は岐阜県や各市町の担当者、関係事業体などから四十二名が参加しました。

午前中は、七宗町の神渕コミュニティセンターで屋内検討会を行い、岐阜県森林研究所の片桐主任研究員を講師に迎え、ニホンジカの生態や林業被害の状況、主な食害防除対策である忌避剤散布、ツリーシェルター、シカ柵のメリットとデメリットなどについて知識を深めることができ、大変参考となりました。

また、当局職員からは、局管内における獣害対策の取組等についての説明を行いました。

屋内検討会の様子

午後は、七宗国有林の七宗町上麻生地区森林共同施業団地内に設置している「獣害対策展示エリア」において、箱ワナや囲いワナ、防護柵、幼齢木保護資材を見学し、参加者間で情報交換を行うとともに、狩猟免許を持った岐阜森林管理署職員による、くくりワナ等の展示や実演を行いました。

くくりワナ等の展示・実演

囲いワナの見学

ニホンジカ食害防除対策には、決め手となるものがないのが現状ですが、今後も民国の関係者が知恵を出し合うことで、地域一体となった対策を推進していきたいと考えています。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【木曽森林管理署
木曽福島森林事務所
首席森林官　中島和美】

地蔵峠からの御嶽山（3,067m）

木曽福島森林事務所は、長野県の南西部に位置する木曽町福島に所在し、西に木曽御嶽山、東に中央アルプス木曽駒ケ岳がある木曽町の木曽福島・日義・三岳にある国有林約七、七〇〇ヘクタールを管轄しています。

御嶽山は、信仰の山として登山者で賑わっていましたが、平成二十六年九月二十七日に噴火による「戦後最悪の火山災害」が発生しました。多くの犠牲者を出すとともに、地域の観光などに大きな影響を与えましたが、その後の八年間に登山道や防災施設などの整備が行われ復興が進んでいます。

今年九月には、御嶽山の剣ヶ峰頂上（三、〇六七メートル）に新しい標柱が設置されました。

御嶽山頂上の標柱

黒沢口（三岳）から登る御嶽山のルートは、御岳ロープウェイを利用して、七合目からの登山で頂上を目指すことができます。読者の皆さんも新しい標柱を目指して登山してみませんか。

また、当事務所の近隣にある城山国有林には、福島城址・権現滝・屏風岩などの史跡を散策できる遊歩道（国有林おさんぽＭＡＰに掲載）があり、地元の方の散策や地域の学校の学習の場となっており、身近な国有林として親しまれています。

城山国有林にある権現滝

当事務所では、植付などの造林事業や間伐などの生産事業の監督業務、登山道や山小屋など貸付地の確認、境界巡検などを行っています。

管内は、木曽谷では珍しく国有林が点在していることから、境界標の確認は大変重要な業務であり、国有林の適切な管理に努めているところです。

森林事務所前にて（筆者）

■未来の担い手へのメッセージ

多くの人が携わりながら、何十年もの歳月をかけて森林を育て・守る、自然を相手にした誇りある仕事です。

ぜひとも、国有林で一緒に仕事をしましょう。

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「豊かな暮らし方提案を通して、豊かな森づくりを目指す」

株式会社やまとわ
榎本（えのもと）　浩実（ひろみ）

■自己紹介

林業大学校を卒業した後、木曽町で地域おこし協力隊に着任。その後、株式会社やまとわへ入社しました。地域の学校と連携をした出張授業のコーディネートや広報などを通して、森のことを色んな人へ伝える仕事をしています。

■活動内容

株式会社やまとわは、長野県伊那市を拠点に森と暮らしをつなぐ様々な事業を行っています。

夏は農業、冬は林業を行う「農と森事業部」、地域材を使ったものづくりをしている「木工事業部」、家づくりやオフィス・店舗設計などを行う「暮らし事業部」、森とまちをつなぐ企画提案などを行う「森事業部」。四つの事業部がそれぞれ連携をしながら、森と暮らしを豊かにする循環づくりを行っています。

２０２０年には、木を紙のように薄く削った日本伝統の包装材「経木（きょうぎ）」のオリジナルブランド「信州経木Ｓｈｉｋｉ」をリリースしました。かつて、肉や魚などを包む包装材として、暮らしの中で親しまれていた経木。しかし、高度経済成長と共にプラスチック製品が普及し始めると、経木は暮らしの中でほとんど見かけなくなりました。

その結果、現在国内の生産者は数えるほどしかいません。

程よい調湿作用があり食材を美味しく保ってくれる経木。私たちはこのプロダクトに森と暮らしをつなぐ新たな可能性を感じ、生産・販売をスタート。現在では百店舗以上で取り扱っていただいています。

また、今年の三月には、経木を使ったステーショナリーブランド「Ｓｈｉｋｉｂｕｎ」をリリース。さらには、クラフトビールのパッケージや教育現場での利用が進むなど、新しい経木の活用が少しずつ広がっています。

信州経木Shiki

Shiki bun 木のノート

農と森事業部・木工事業部・暮らし事業部・森事業部　集合！

■メッセージ

今回は、経木の一例をご紹介しましたが、私たちはこれからも、色んな角度から森と暮らしをつなげる取り組みを行っていきます。やまとわの日々の様子などは、ＳＮＳで更新していますので、ぜひチェックしていただけると嬉しいです。

○連絡先
住所：長野県伊那市西箕輪　６５６５－２０
電話：０２６５－７８－２１２１
mail：meguru@yamatowa.co.jp
HP：https://yamatowa.co.jp/

シリーズ
中部の保護林（第21回）

南アルプス中央に広がる植物群落

南アルプス（塩見等）生物群集保護林

設定目的

仙丈ケ岳から塩見岳周辺に至る高山帯には、ハイマツや高山植物が生育し、亜高山帯にはサワラ、シラビソ、トウヒ、ダケカンバ等から構成される天然林が広がっています。

これらの高山帯から亜高山帯に生育している植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

当保護林は、三峰岳を中心として南北に広がる約五、二〇〇ヘクタールの広大な区域です。植生については林齢二〇〇年前後の亜高山性の天然林が山腹を覆っており、雄大な地形と調和して壮大な景観を生み出しています。

稜線付近にはハイマツと様々な高山植物が群生しており、ライチョウの重要な生息地となっています。

所在地
長野県伊那市、下伊那郡大鹿村

※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課　ダイヤルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ 秘蔵写真

今は昔の林業

第21回

中部森林管理局技術普及課
井上（いのうえ） 日呂登（ひろと）

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「白鳥貯木場（しろとりちょぼくじょう）」その二

白鳥貯木場は「水中貯木場」に分類される施設であり、水に浮かべた丸太が少ない労力で出し入れされるとともに、水に浸けておくことでの急激な乾燥の防止、防虫、防菌などの効果を期待したものです。また、伝統的な木造建築ではある程度の期間、水に浸けたほうが良い木材だという考え方もありました（後に十分乾燥させて使います）。

昭和四十六年、堀川を運ばれるイカダ

白鳥貯木場では各地から集まる丸太が荷受けされ、計測・仕分をし、長さや太さなどのまとまった区分ごとに積み上げる「椪積（はいづみ）」、販売、引き渡しなどの作業が行われていました。

時代とともにイカダを引っ張るタグボートや、丸太を持ち上げる起重機・クレーン・ログローダなどの機械も使われるようになりますが、不安定な水上で、丸太を引っ掛けて動かす竹で出来た長い柄の「トビ」を持った「筏師（いかだし）」達が働く風景は水中貯木場ならではの独特の風景でした。

昭和31年頃、水上での丸太の計測（検知）作業

昭和46年、トビを持って移動する筏師

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

中部森林技術交流発表会 開催のご案内

中部森林技術交流発表会は、当局管内の組織と、森林・林業・木材産業に携わる各種機関や学校等が、日頃から行っている試験研究、技術開発、活動等の取組を共に発表する場です。

参加者間で技術や知識の共有を図りつつ、これをライブ配信することで、取組成果の普及を行い、森林・林業・木材産業の更なる発展に資することを目的としています。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の観点からウェブ開催とし、ＹｏｕＴｕｂｅライブ配信を行いますので、ご視聴ください。

【開催(配信)日時】
一日目／一月二十三日(月曜日)
十時十五分～十六時十五分
二日目／一月二十四日(火曜日)
九時三十分～十一時十五分

【発表課題】
国有林の部(森林管理署等)　十課題
民有林・学生の部　十課題

【配信アドレス】
https://www.youtube.com/channel/UCxTzwPe33VfVCpnXgUjYS8g

【お問い合わせ先】
森林整備部　技術普及課
電話／〇二六―二三六―二六二四

ご応募いただいた林業従事者の皆様に心より感謝申し上げます！

管内４県の林業の現場から、120点を超える作品が届きました。
これから審査を行い、当局のホームページにて結果を発表いたします。

審査は、林業現場で働く姿と風景(力強さ、躍動感、達成感、安全作業への配慮、休憩・休息時間の顔、最新機械の利用等)の写真での表現力に注目するとともに、山で働くことへの想いのメッセージ性等を勘案して行われます。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、**migoro@maff.go.jp**まで電子メールでお送りください。)

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします!

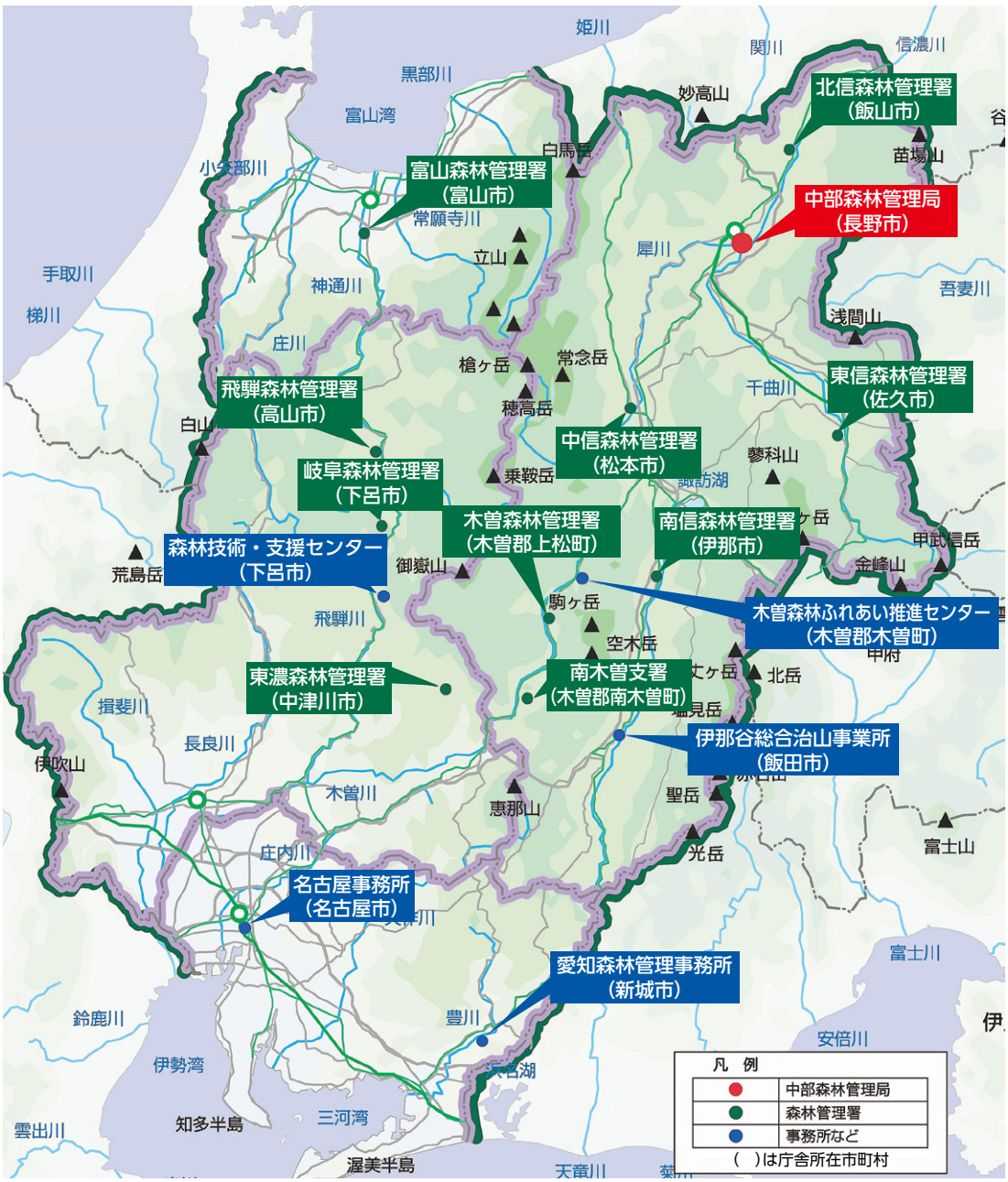
昨年7月から12月23日までの間、広報のメールアドレス(migoro@maff.go.jp)に林業従事者写真コンテストの作品が届く度、カッコイイ姿や素敵な笑顔などに心温まる幸せな日々を過ごさせていただきました。

作品を送っていただいた皆様、本当にありがとうございました!

私は若い頃に新潟県の新発田(しばた)営林署(現在の下越(かえつ)森林管理署)で森林官をしていましたが、足場の悪い森林内の移動に悪戦苦闘する中、現場で作業を行う職員の無駄のない動きに感動し、多くを学び、汗だくで下刈などを行う姿に支えられ、徐々に歩くスピードや方言まじりの会話にもついていけるようになり、現場ならではの工夫や協力、楽しみや喜びがあったことを思い出しました。

これからの林業にも欠かせない存在である林業従事者。その働く姿と風景を多くの方にご覧いただき、林業に興味を持っていただきたいと思います(*^▽^*)

3.「冬に咲くブナの華」(北信署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。

中部森林管理局
ホームページ

広報
「中部の森林」

用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月 10 日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。